(真里) あーちん 何周目？

(麻美) えっ？ 何？

何周目？ 人生｡

(麻美) 人生…？

１周目じゃないよね？

(麻美) え…？

大丈夫 私もだから｡

(麻美) そうなの？

あーちん 何周目？

(麻美) ４周目…｡

そっか｡

私 ５周目｡

(麻美) ハァ～｡

よかった～！ やっと話せる時が来た｡

(麻美) まりりん いつから気付いてたの？

実は ず～っと怪しいなとは 思ってたの｡

(麻美) え～ そうなんだ｡ >> だってさ あーちんってこんな勉強できる子じゃ なかったじゃん｡

(麻美) そうだね｡

ちなみに私 何回か あーちんに 鎌かけたことあんだよね｡

(麻美) えっ！ どうやって？

これ これ撮った時にさ私が｢盛れてるね｣って言ったらあーちんが｢盛れてる｣って 言ったんだけどさ｡

〔こっちのほうが ２人とも盛れてるね〕

(麻美)〔盛れてる〕

あの時って まだ｢盛れてる｣って 言葉ないんだよね｡

(麻美) え～ 全然気付かなかった｡

でさ その帰りに私 イオンの話 したんだけどさ｡

〔今までイオンくらいしか 遊ぶとこなかったもんね〕

(麻美)〔だよね～〕

あの時ってまだ イオンじゃなくて ジャスコなんだよね｡

(麻美) マジか…｡

でもさ そんな前から 気付いてたんだったらもっと早く言ってくれれば よかったのに～｡

>> なかなか言えないって｡

(麻美) 何でよ～｡

だって 万が一違ったらさ ヤバい奴だって思われるじゃん｡

せっかく仲良くなれたのに｡

(麻美) え～ でもさ直接的な聞き方じゃなくてもさ 何か やり直してる人にだけ分かるような サイン出してみるとかさ｡

>> サイン？

(麻美) 何だろう 例えば５周目だったら さりげなく こう… 何だろうこうやってみせるとか｡ >> いや 分かんない 分かんない｡

そんなの｢はぁ？｣ってなって 終わりだよ｡

(麻美) そうかなぁ｡

じゃあさ 私がさっき こうやって何か…｡

…とかやったら 気付いてた？

(麻美)｢は？｣ってなるね｡ >> なるんじゃん｡

(麻美) そうかぁ｡ >> ハァ～｡

(麻美) じゃあさ まりりんも あの受付みたいな所に行ったってこと？ >> あの白いとこでしょ？

(麻美) そうそう… やっぱり同じなんだ え～｡

まりりんは来世 何て言われたの？ >> 私？

えっと… 一番最初はグアテマラ南東部のシロアリ｡

(麻美) ん？

>> グアテマラ南東部のシロアリ｡

(麻美) シロアリ？

何か オオアリクイに めっちゃ食べられてるシロアリ｡

(麻美) へぇ～｡

>> 最悪でしょ？

(麻美) 最悪だね｡

あんな舌で食べられるのとかさ 想像しただけでゾッとするよね｡

(麻美) そうだね｡ >> しかもさ 何がムカつくってその時に出された シロアリの写真がさオオアリクイの写真の 使い回しなの ひどくない？

(受付係)〔こちらになりますね〕

(真里) シロアリメインじゃなくって オオアリクイメインで食べられてるシロアリを指して…｡

〔こっちですね この食べられてるほう〕

(麻美) それはムカつくね｡ >> でしょ？

胸ぐら つかみそうになったもん｡

(麻美) そうかぁ｡

えっ あーちんは？ 来世 何って言われた？

(麻美) 私？ 私も…シロアリ関係だね｡ >> えっ!? あーちんもシロアリ？

(麻美) 何か シロアリ関係｡ >> えっ やった！

あーちんもシロアリなんだ そっか じゃ 私たちそういう運命なのかな？

(麻美) まぁ そうかも｡

あっ ねぇねぇ… じゃあさ まりりんもまた 人間になるために やり直してるってこと？

うん まぁ それもあるんだけど 半々かな？

(麻美) 半々？ >> うん｡

実は もう一個 目的があってさ｡

(麻美) 何？ 何？ 何？

えっとね どっから話そうかな…｡

あっ 待って ちなみにあーちんの記憶の中で 私って どういうイメージだった？

(麻美) イメージ？ いや 私の中では もうず～っと優等生だね｡

だから この４周目までは ほとんど喋ったこともなかった｡

>> やっぱ そっからになるんだ｡

(麻美) ん？

えっ 何 どういうこと？ 違うの？

>> 全然｡

(麻美) え？

私の１周目なんて 優等生どころか 中の下ぐらいだから｡

(麻美) えっ？ 全然イメージ湧かないわ｡

えっ ちょっと待って え？ >> しかもさ 元々は私と あーちんと なっちと みーぽんの４人グループだったからね｡

(麻美) え…？

(麻美) えっ そうなの？

(真里) うん｡

混乱するよね｡

(麻美) うん｡

順を追って 話してくからさ｡

(話し声)

(チャイム)

(真里) あっ あーちん｡

(麻美) まりりん｡

(真里) 一緒に帰ろう｡

(麻美) うん 帰ろう｡

(真里) ⟨あの頃 ４人はいつも一緒だった⟩

(夏希) 今日 ドラマクラブやる？

(真里) やろう やろう｡

(夏希) じゃ 帰ったら 小松商店 集合ね｡

(麻美) ＯＫ！

(美穂) “ビーチボーイズ”良かったよね｡

⟨ドラマ好きだった私たちは ドラマクラブというドラマについて語り合うだけの クラブを結成していた⟩

(夏希) でもさ やっぱり今期は “ナースのお仕事”じゃない？

(麻美) まぁ そうだよね｡

>> あとは “ラブジェネ”じゃない？

(美穂) あ～ “ラブジェネ”ね！

(夏希)“ラブジェネ”忘れてた｡

(麻美)“ラブジェネ”も面白いよね｡

(夏希) 面白いよね｡

(美穂) じゃあ 今期は“ナースのお仕事”と “ラブジェネ”の２本かな？

(麻美) 今期は… そうだね うん｡

(夏希) ねぇ ヤマト行かない？

(美穂) いいよ｡

(麻美) なっち 何見るの？

(夏希) 私ね シール見たいんだよね～｡

(麻美) 私も見たい！

⟨当時 私たちの間では シールが流行っていて文房具店で かわいいシールを買っては…⟩

⟨シール帳に貼ったり 交換したりしていた⟩

(夏希) まりりん お誕生日おめでとう！

(麻美:美穂) おめでとう！ >> え～ ありがとう！

(夏希) これ ３人から｡ >> えっ ホントに？

開けていい？

(美穂) 開けて 開けて｡

ナカムラくんじゃん！

超かわいい！

(３人) よかった～！

(夏希) 喜んでくれて｡

(麻美) まりりんエンジェルブルー 好きだったもんね｡

うれしい！ かわいい！

(美穂) 私ね このカッペくんが好きなの｡

(夏希) 私 ハナちゃんのほうが好きかな｡

(美穂) あ～ やっぱね｡

ハナちゃんもかわいいもんね｡ >> これ かわいい｡

(夏希) よかった 喜んでくれて｡

(美穂) ねぇねぇ 今年さ ドラマ 何が一番面白かったと思う？

⟨中学に入ってからも 私たちは ずっと一緒だった⟩

出た 竹野内 豊｡

(麻美) 大好きじゃん｡

(４人) おぉ…｡

(美穂) デカっ｡

(夏希) 何か 地元じゃないみたい｡

(麻美) すごいね｡ >> ここ住みたいんだけど｡

(夏希) 分かる｡

(美穂) えっ 住みたくはなくない？

⟨今まで ジャスコくらいしか遊ぶ場所がなかった 私たちにとってここは 夢のような空間だった⟩

(美穂) 私これ ずっと取っとこう｡

(真里:夏希) 私も！

(麻美) 私も 取っとこう｡

(高校生たちの会話)

おはよう｡

⟨中学卒業後 私は川塚高校に入学した⟩

え？ あーちん？

(麻美) お～ まりりん｡

>> メールする｡

(麻美) うん｡

(男子生徒) 誰？ 誰？ 誰？

(まどか) おはよう｡

(麻美) おはよう｡

どうだった？

⟨うちの学校は ギャルっぽい子が 多かった影響もあって…⟩

昨日の“野ブタ｡”見た？ >> 見た！

⟨この頃は 若干 ギャル寄りだった⟩

⟨高校卒業後私は 保育士の専門学校に入学⟩

⟨４人とも 学校はバラバラだったけど休みになると一緒に遊んでいた⟩

(麻美) 何か みーぽんが運転してんの不思議｡

>> 分かる 超違和感あるよね｡

(美穂) そう？

(夏希) いや 感慨深いよ あのみーぽんがだよ？

(麻美) そうだよ あのみーぽんが 運転してんだもん｡

あのみーぽんが 車間距離 取ってね｡

(夏希) あのみーぽんが時速40kmでさ｡

(麻美) あのみーぽんが法定速度をさ｡

見て！ あのみーぽんが 右折しようとしてる｡

(美穂) どのみーぽんのこと言ってんの？

(３人) あのみーぽんだよ！

(美穂) そろってるし｡

(麻美) これで うちらの行動範囲も 一気に広がるよね｡

(夏希) 広がる｡

何かさ “ドラクエ”で 船取った時の感覚だよね｡

船っていうかルーラじゃない？

(夏希) どっちかっていうと船だよね？

(麻美) そうなの？

(美穂) 私 “ドラクエ”やんないから 分かんない｡

(麻美) 私も分かんない｡

(夏希) ２人ともＦＦ派？

(麻美)“ＦＦ”も やんない｡

(美穂) 私も どっち派でもない 強いて言うなら 犬派｡

(夏希) 何の話？

(麻美) 私 しょうゆ派｡

(美穂) あっ 目玉焼き？ 私も しょうゆだな｡

>> 私 ソース｡

(美穂) マジで？

>> しょうゆかけて食べたことない｡

(美穂) そんな人いるんだ｡

なっちは？

(夏希) 私？

(麻美) なっちは ドラクエ派でしょ？

(夏希) しょうゆ派だよ｡

>> 目玉焼きに“ﾄﾞﾗｸｴ”かけんでしょ？

(夏希) かけねえよ｡

(ｶｰｽﾃﾚｵ)♪～ “White Love”

⟨思えば この日が10代で 一番楽しかった気がする⟩

(美穂) え？ 何か近くない？ 怖い怖い怖い｡

⟨そして翌年⟩

(市長) おめでとうございます 輝かしい未来を切り開いて…｡

(男) おい！ そうじゃねえだろ ジジイ！

つまんねえ話 してんじゃねえぞ｡

(男) よっ 待ってました～！

ウェ～イ！ ウェ～イ！

(美穂) ああいう人たちって ホントにいるんだ｡

(夏希) ねぇ ニュースでしか 見たことなかったよね｡

ちなみにさ あの人って 今まで ニュースとか見てたのかな？

(美穂) そりゃ見てたでしょ だから やってんじゃない？

(麻美) 知らなかったら やろうとは思わないよね｡

えっ じゃあ ニュース見て｢成人したら俺もやりたい｣って 思ったってこと？

(美穂) 思ったんじゃん？

(夏希) じゃ 憧れの成人式暴れを 今やってんだ｡

へぇ～｡

(麻美) だってさ この人 これのために 朝 早起きして着付けしてセットして 来てるからね｡

(美穂) そうだよ ちゃんと目覚ましかけてんだよ｡

寝坊したら終わりだもんね｡

ねぇ これってさ どうなったら成功なの？

(美穂) 分かんない｡

(夏希) あの人は成功なの？

(美穂) 多分だけど 失敗じゃない？

(夏希) だよね｡

⟨ちなみに 彼が高校の クラスメートだということは恥ずかしいので伏せておいた⟩

⟨成人式の後は 西中のみんなで カラオケに集合した⟩

(一同) イェ～イ！

(加藤) おめでとう 乾杯！

⟨ちなみに 中学時代に ひそかに思いを寄せていたあの加藤君は もう この世に存在していなくて⟩

⟨逆に 特に意識していなかった 福ちゃんが…⟩

(福田) 宇野は今 何やってんの？ >> 今？

保育の専門行ってる｡ >> え～ 保育？ 似合うね｡

ホント？ >> うんうん…｡

⟨何だか カッコよくなっていた⟩

⟨しかも…⟩

♪～ オレの青春 そんなもんじゃない

♪～ 熱く奥で果てたいよ

⟨歌も うまかった⟩

♪～ オレは イケナイ太陽

♪～ Ｎａ Ｎａ

赤外線どこ？ ここ ここ｡

そこ？ あぁ 来た 来た｡

登録しました｡ >> は～い｡

⟨これが きっかけで私は福ちゃんと 連絡を取るようになり…⟩

(加藤)♪～ 粉雪 ねえ

♪～ 心まで白く

⟨数か月後 私たちは付き合い始めた⟩

(福田) 今度 路上ライブやろうと 思ってるんだよね｡

えっ！ いいじゃん｡ >> ホント？

何歌うの？ >> まぁ そうね今なら コブクロじゃない？ >> え～ いいじゃん！

♪～ 何も無い場所だけれど

♪～ ここにしか咲かない花がある

⟨音楽のほうは なかなか 売れそうになかったけどそれでも 私は彼の夢を 一生支えていくつもりだった⟩

♪～ 静かに降ろせる場所

(麻美) えっ えっ 何？ 福ちゃんと付き合ってたの？

>> そう｡

(麻美) 全然 想像できないな｡

でも 半年ぐらいで 別れちゃったんだけどね｡

(麻美) 何で別れちゃったの？ >> 福ちゃんの浮気｡

(麻美) うぅ… 浮気？ あの福ちゃんが？

まぁ 魔が差したんだろうけどね｡

(麻美) ちなみに誰と？

>> しーちゃん｡

(麻美) えっ!?

>> アハハ…｡

(麻美) えっ ウソでしょ？

いや何かね 実は しーちゃん成人式の時から 福ちゃんのこと狙ってたらしくて｡

っていうか これ教えてくれたの あーちんたちだからね｡

(麻美) そうなの？

(夏希)〔最後はみんなで “笑えれば”を熱唱〕

(麻美)〔ＯＫ 完璧〕

(夏希)〔うん〕

〔ごめん 遅くなって〕

(夏希)〔お疲れ～〕

(４人)〔乾杯〕

(麻美)〔あのさ まりりん〕 >> 〔うん 何？〕

(麻美)〔ちょっと まりりんに 大事な話があってね〕

〔え？ 何？ 怖い怖い 何？〕

(麻美)〔昨日ね うちら たまたま 福ちゃん家の前 通ったの〕

〔そしたら ちょうど 福ちゃんがいたんだよね〕

(夏希)〔そう… そんで声かけようと思ったらしーちゃんも一緒でさ〕

〔え？〕

(夏希)〔いや… そのまま 家の中に入ってったのね〕

〔マジで…？〕

(麻美) うちらが目撃したんだ？ >> そう｡

(麻美) え～ で どうなったの？

取りあえず 本人呼んで 事実確認してあとは… 話し合い？

>> 〔あぁ…〕

(美穂)〔結構出てる〕

(夏希)〔出てるね 出てる出てる〕

(美穂)〔あんまり上向かないほうが…〕

(麻美)〔下向いて 鼻つまんだほうがいいよ〕

ふ～ん｡

しーちゃんは？

しーちゃんとも 話そうかなと思ったんだけど話したところで どうにもなんないからさ｡

〔｢久しぶり｣じゃねえよ てめぇ やってくれたな あぁ!?〕

〔今すぐラウンドワン来い 即行来い ダッシュで来い〕

〔いいから来いっつってんだよ！ ｢何で？｣じゃねえよ〕

〔しらばっくれてんじゃねえぞ ブス!!〕

〔ぶっ殺してやるからな！ 来いっつってんだよ！ あぁ!?〕

(麻美)〔もしもし しーちゃん？ しーちゃん？〕

〔ねぇねぇ… 取りあえず ここには来ないで〕

〔うん またかけ直す〕

〔うん うんうん…〕 >> 〔分かってんだろうな～!?〕

(麻美) そうかぁ…｡ >> うん｡

(麻美) よく我慢したね｡ >> まぁね｡

でも結局 私はその場で別れて２人はその後 付き合って結婚してその後は今と同じ流れ｡

(麻美) へぇ～ 全く知らなかった｡

だからさ ２周目以降の 成人式の後のカラオケって私 ほら 行ってないでしょ｡

(麻美) あぁ それで？

そっか でもさ 今回は来たじゃん｡

大丈夫だったの？ >> うん 全然大丈夫｡

だってもう 100年以上前だしそもそも 向こうにそんな記憶ないからさ｡

⟨専門学校卒業後 私は さくら保育園に就職⟩

⟨保育士は やることも多く思っていた以上に 大変だったけど…⟩

〔公園行く人？〕 ⟨やりがいのある仕事だった⟩

(真里)〔ストップしま～す〕

(麻美)〔まりり～ん！〕

へぇ～ まりりん さくら保育園に勤めてたんだ｡

そう でさ 社会人になってからも４人で月２ぐらいで ごはんに行ってたりしたのね｡

(麻美) ふ～ん｡

(美穂)〔じゃあ まりりん ちょっと早いけどお誕生日おめでとう！〕 >> 〔わぁ ありがとう！〕

(美穂)〔これ ３人からで～す〕 >> 〔ありがとう 開けていい？〕

(夏希)〔うん 開けて 開けて〕

〔えっ 待って… めっちゃいいやつじゃん〕

(麻美)〔一応 最新のやつだよね〕

(美穂:夏希)〔ねぇ～〕

>> 〔結構したでしょ？〕

(麻美)〔いや そんなでもないよね〕

(夏希)〔３人からだしね〕 >> 〔え～ うれしい ありがとね〕

(美穂)〔よかった～〕 >> 〔ありがとう〕

(美穂)〔とか言いながら 値段調べないの〕

(麻美)〔せ～の〕

(店員)〔おめでとうございます〕

(３人)〔♪～ ハッピーバースデー トゥ ユー〕

〔♪～ ハッピーバースデー トゥ ユー〕

〔♪～ ハッピーバースデー ディア まりりん〕

〔イェ～イ！〕

〔♪～ ハッピーバースデー トゥ ユー〕

(麻美) え～ 私 ３人の時しか 記憶にないけどさ４人 超楽しそうだね｡

(真里) 楽しかったよ～｡

でもさ 実は 悲しいことがあってね｡

(麻美) 悲しいこと？ >> うん｡

ちょっと場所変えない？

(麻美) うん うん… いいけど｡

すいません お会計お願いします｡

(店員) はい かしこまりました｡

(店員) ごゆっくりどうぞ｡

(麻美) 今日 福ちゃんいなかったね｡ >> そうだね フフフ｡

(麻美) ねぇねぇ 何？ その悲しいことって｡

あぁ…｡

これ だいぶ重い話なんだけど｡

(麻美) そんな重いの？

まぁ 極力重くならないように かいつまんで話すね｡

(麻美) 怖いな… 何？

実は…｡

なっちと みーぽんが 死んじゃったのね｡

(麻美) 何で？

飛行機事故｡

(麻美) 飛行機事故？

２人が乗ったのが 中規模の国際線で高高度でスペースデブリが 激突しちゃってさ｡

(麻美) スペースデブリって何だっけ…｡

あっ 宇宙ごみ？ >> うん 人工衛星の残骸とか｡

(麻美) 最近 問題になってるやつだ｡ >> そうそう…｡

(麻美) でもさ 大気圏外の人工衛星に 衝突しちゃうとかは私も聞いたことあるけど 大気圏内の飛行機に衝突するなんてことあるの？ >> 確率的には ほぼゼロだけど実際 起こっちゃったからね｡

(麻美) ちょっとピンとこないな…｡ >> そうだよね｡

うちら２人とも しばらく立ち直れなかったからね｡

(麻美) そりゃ そうだよね｡ >> でもお互い いつまでもふさぎ込んでるわけには いかないからさ｡

２人の分も頑張って生きようね って約束してその後も たまに ごはんに行ったりとか毎年 一緒に お墓参り行ったりしてたの｡

(麻美) その時の私は 何歳まで生きてたの？

どうだろう？ 私が 62歳で先に死んじゃったからそれよりは生きてるよ｡

(麻美) そうなんだ｡

でさ そこから２周目の人生が スタートするんだけど｡

自分的には なっちとみーぽんの ことを助けたかったのね｡

(麻美) まぁ そうね そう思うよね｡

で最初は ２人を 飛行機に乗らせなきゃいい…と思ってたんだけど よく考えたらホントにそれでいいのかなって 思い始めて｡

(麻美) 何で？

仮に ２人を止めて救ったとしてもその他の大勢の乗客は 死んじゃうわけじゃん｡

自分の友達だけ助けて あとは見殺しってさすがに心痛むじゃん｡

(麻美) あぁ～ そうか｡

あとは徳の問題もあるしね｡ >> うん｡

で いろいろ考えた結果もう その飛行機に 乗るしかないって思ったの｡

(麻美) あっ パイロット？ >> そう｡

(麻美) うわ そのためのパイロット？

(脚本家)〔死んでしまった 親友の命を救うとか〕

(監督)〔もしくは 大勢の命を救うとかね〕

〔救世主になるぐらいに したいですね〕

(麻美) ホントに救世主じゃん｡ >> いや でも さっきも言ったけど私 ポテンシャル的には 中の下で普通に生活してたら パイロットなんて絶対なれないからさ｡

小学校の頃から 毎日 必死に勉強して体も鍛えてさ｡

(麻美) そうだったんだ｡

そしたら ３人と仲良くなる きっかけ逃しちゃってさ｡

休み時間も ず～っと勉強してるからみんなが話しかけづらい子 みたいになっちゃった｡

(麻美) そういうことだったんだ… そっか～｡

(美穂)〔真里ちゃん ちょっと完璧過ぎて 近寄りがたさあったよね〕

(夏希)〔分かる いい子なんだけど 緊張しちゃうんだよね〕

(麻美) 何… そんなの 超寂しいじゃん｡

寂しいけど その方法しか 思い浮かばなかったからさ｡

(麻美) でもさ 実際のところ パイロットになったからってそんな超高速で迫ってくる スペースデブリを避けることなんてできるの？ >> それは大丈夫｡

事前に分かってるから 航路さえ変えちゃえば平気なのよ｡

実際 天候で航路変えることは 普通にあるし｡

(麻美) そうなんだ｡ >> うん｡

それで まぁ 何とか パイロットになったんだけどさ｡

今度は 33歳の時にあーちんが死んじゃったんだよね｡

(麻美) えっ？

交通事故 上元町のコンビニの前で｡

(麻美) あぁ それ私の１周目の記憶だ｡

実は あーちんが死んじゃったのって私のせいなんだよね｡

(麻美) えっ？

(真里の声) その日さ みーぽんの誕生日のお祝いでごはんしたでしょ？ 私の１周目ではその日私も一緒だったのね｡

(美穂)〔じゃあ もうさ ４人で同じ 老人ホーム入ればよくない？〕

(麻美)〔それ いいね〕 >> 〔楽しそう〕

(美穂)〔うちらが入る頃って40年後 とかでしょ？ その頃には超ハイテク老人ホームとかに なってそうじゃない？〕

(夏希)〔確かにすごそう〕

(麻美)〔車いすとか浮いてそうだよね〕

(美穂)〔フリーザ乗ってるやつでしょ〕

(麻美)〔アッハ～！〕

〔でさ 相手の生命力 分かる機械 ここにつけるんでしょ〕

(夏希)〔スカウターね〕

(美穂)〔フリーザじゃん それ〕

>> 〔みーぽんさん〕

(美穂)〔ハハハ！〕

〔｢ザーボンさん｣みたいに 言わないで〕

(夏希)〔よし 決まりだね〕

(麻美)〔決まりなの？〕

(美穂)〔行くか じゃあ〕

(麻美)〔私 歩いて帰るわ〕

(美穂)〔マジで？〕

〔私も歩いて帰ろう〕

(麻美)〔おめでとう！〕 >> 〔バイバイ おめでとう！〕

(麻美)〔じゃ 行きますか〕 >> 〔あっ 待って〕

〔その前にトイレ行っていい？〕

(麻美)〔出た〕

〔まりりん名物 帰り際トイレ〕 >> 〔ごめんごめん〕

(真里の声) 私がトイレに行ってあーちんを ちょっとだけ待たせたのね｡

それが結果的に タイミングを ずらせてたんだけど２周目では 私がいなかったから事故に遭っちゃったんだと思う｡

(麻美) なるほど｡

だから あーちんが 亡くなったって聞いて私絶対 自分のせいだって 落ち込んでさ｡

(麻美) それは仕方ないじゃ～ん｡ >> いや でも実際私が行動を変えたことが 事故につながっちゃってるからさ｡

ショックで そのまま体調崩しちゃって｡

(麻美) ちょっと待ってよ… ホント何か ごめん｡

あっ いやいや違うの そういうつもりじゃ ない｡

ごめんね ごめんごめん…｡

でも そんな状態じゃ飛行機なんて 乗せてもらえないじゃん｡

(麻美) 確かにそうだね｡ >> で 結局飛行機も予定通り飛んで｡

(麻美) うわ…｡

ん～～～｡

何それ そんなの 超つらいじゃん｡ >> うん…｡

正直 その後のことは あんまし 自分でもよく覚えてないんだけど｡

結局 40歳迎える前に 死んじゃってさ｡

で やり直すことになって３周目の人生も パイロットになってまずは あーちんを救うために あの日 コンビニに行ったの｡

(麻美) えっ？

(玲奈)〔ねぇ聞いて ギョウ虫さ２人の時に 赤ちゃん言葉になんの〕

(３人)〔嫌～！〕

(真里の声) そしたら なぜか 玲奈ちゃんもいて予定よりも長くコンビニにいて事故に遭わなかったの｡

(麻美) えっ まりりん いたんだ？ >> うん｡

でもさ あーちん その後 割とすぐ 死んじゃったよね？

(麻美) そうそう… 前野朋哉に気を取られてね｡

>> 前野朋哉？

(麻美) ドラマの撮影現場に遭遇してよそ見してたら トラックに ひかれちゃったんだよね｡

>> そうだったんだ｡

(麻美) それで死んじゃったんだよ｡

ビックリしたよ｡

それでさ ３周目も また なっちとみーぽんは救えなくて｡

(麻美) え？ それは何で？

パイロットって 乗りたい便 選べるわけじゃないからさ｡

ある程度の希望は出せるけどフライトのシフトが うまく合わないと狙った便に乗れないのね｡

(麻美) そうなんだ｡

で その後 交通事故に遭っちゃって｡

(麻美) まりりんも？ >> うん｡

(麻美) 前野朋哉？

いや そこは違うんだけど｡

で ４周目の人生も パイロットになってその後また 交通事故で｡

(麻美) えっ？ また交通事故で 死んじゃったの？

うん 何かね 聞いたら私 30代が死にやすい時期らしくて｡

〔宇野様の場合がですね それが30代ということです〕

〔え？〕

(麻美) そのグラフ 私も見た！ >> えっ!? あーちんも30代？

(麻美) そこだけグ～ンってなってた｡ >> なってた 私と一緒だ｡

やった～ そうなんだ｡

(麻美) ねぇねぇ それでそれで？ >> うん それでまた やり直すことになって 今がその５周目｡

(麻美) わぁ…｡

じゃあ これから 飛行機乗るってこと？

>> そう｡

(麻美) 大丈夫？

うん 今度は大丈夫｡

シフトは これからなんだけど今回はね スケジューラーさんとも 仲良くなってるから絶対に乗れる｡

(麻美) そっか｡

ちなみに そのフライトはいつなの？

えっとね 結構まだ先で 来年なんだよね｡

(麻美) そっか まぁ 大丈夫だと思うけど 気を付けてね｡

うん 今度は絶対に大丈夫｡

(麻美) 何かさ 私にできることある？

>> う～ん 特にはないかなぁ｡

(麻美) そっか｡

ありがとう｡

ふぅ～｡

あっ ねぇねぇ 帰りさ プリクラ撮らない？

(麻美) 撮ろう 撮ろう じゃ そろそろ行こう｡

あっ その前にトイレ行っていい？

(麻美) 出たよ… 行っといで｡ >> ごめんね～｡

(麻美) ⟨重くならないようにかなり端折って 話してくれたみたいだけど彼女はきっと これまでに 想像を絶するようなつらい体験を してきたんだと思う⟩

(麻美) 熊谷ビューティー学院 あっち向いて 口開けて 笑って｡

(ﾌﾟﾘﾝﾄｼｰﾙ機) こんな感じに撮れたよ｡

(麻美) すっごい笑ってるじゃん｡

(真里) アハハ…！

(麻美) よかったね｡ >> こんな笑ったの久しぶりかも｡

(麻美) あ～ よかったね 本当によかったね｡

>> よかった ありがとう｡

(麻美) うん｡

ここ２人で歩くの 久しぶりじゃない？

(真里) うん 超久しぶり｡

(麻美) ねぇ 今度さ あの２人 カラオケに誘ってみない？

>> え～ 来てくれるかな？

(麻美) 来てくれるよ｡

>> でもさ 緊張しない？

(麻美) うん 分かるよ｡

でもさ 元々４人で遊んでたんだから波長は合うはずなんだよね｡ >> そうだね｡

じゃあさ 無事 フライトが成功したら行こう｡

(麻美) えっ だって フライトって来年でしょ？

その前に行こうよ｡ >> あ そっか｡

(麻美) それこそ 来月とか再来月またこっち帰ってきた時に 行かない？

そうだね｡

じゃあね｡

(麻美) そっか まりりん こっちか｡

>> また連絡する｡

(麻美) じゃあね バイバイ｡

(麻美) ⟨近々４人で 集まれることを願いつつまりりんと別れた⟩

(麻美) ⟨翌日からまた いつもの日常に戻った⟩

実験用のキット買って 使った後って大体 一部の試薬類が やたら余るじゃないですか｡

(多江) 分かる ものによって 減り方が全然違うからね｡

(麻美) しかも余った試薬って ほぼ使い道ないんだけどキット自体が高いから 何となく捨てづらくないですか？

捨てづらい｡

それで どんどん たまっていくんだよね｡

(麻美) 納豆のカラシみたいですよね｡

>> 納豆のカラシ？

(麻美) ああいうのっていつか使うかなと思って 冷蔵庫に輪ゴムで縛ってストックしたりするんですけど 結局使わないままどんどん たまっていくじゃないですか｡

私 納豆のカラシは 100パー使うからたまんないよ｡

(麻美) そうなんですね｡ >> それでいうなら 私あれだねスーパーのさ パックのお刺し身に 付いてるワサビ｡

(麻美) 小っちゃいやつ｡

私 あのワサビつけないで 食べるからさ取りあえず 輪ゴムで縛って いつか使う日のためにストックしてあんだけど 全然使わないね｡

(麻美) あっ お刺し身に ワサビつけないんですね｡

>> うん つけないね｡

(麻美) じゃあ お寿司もですか？

>> うん 基本サビ抜きだね｡

(麻美) そうなんですね｡

やっぱり 魚本来の味を楽しみたいからさ｡

(麻美) へぇ～｡

⟨刺し身やお寿司にすら ワサビをつけたくない人がストックのワサビを使うことなど 一生ないので今すぐ捨てるべきと思ったけどめんどくさいので 言わないでおいた⟩

⟨そして まりりんと会ってから １か月ほど経ったある夜のこと⟩

(麻美) ⟨何だか胸騒ぎがした⟩

⟨だけど その便のフライトは…⟩

〔結構まだ先で 来年なんだよね〕

♪～

📱(音声ｶﾞｲﾀﾞﾝｽ) おかけになった電話は電源…｡

♪～

📱(音声ｶﾞｲﾀﾞﾝｽ) おかけになった電話は 電源が入っていない…｡

♪～

📱(音声ｶﾞｲﾀﾞﾝｽ) おかけになった電話は 電源が入っていないか…｡

♪～

(麻美) ⟨そして この胸騒ぎは的中してしまった⟩

(福田) 何か突然過ぎて 実感 湧かないね｡

(麻美) 湧かない｡

(美佐) 私も｡

(福田) だよね｡

(美佐) ちょっとさ お茶して帰んない？

(麻美) そうだね…｡

何か このまま １人になるのはつらいし｡

じゃあ 俺が働いてる店に来る？ カラオケなんだけど｡

大丈夫なの？ >> うん そこなら個室だし気を使わないで済むでしょ｡ >> そうだね｡

なっちと みーぽんってさ小学校の頃から ずっと一緒だったよね｡

(麻美) 一緒だった｡

最近も この店に よく２人で来てたんだよね｡

そうなんだ｡ >> うん｡

麻美ちゃん 真里ちゃんと 昔から仲良かったよね｡

(麻美) うん そうだね｡

>> 生徒会の会長と 副会長だったもんね｡

(麻美) うん｡

１か月前もね 一緒にお茶して その後 ここ来たんだよ｡

(福田) そうだったんだ｡

(麻美) そうそう…｡

(福田) 丸山は？ 最近会ってた？

(麻美)〔ちなみに そのフライトはいつなの？〕

〔えっとね 結構まだ先で 来年なんだよね〕

(麻美) ⟨今思えば あれは まりりんが 私に心配させないためのウソでいつの間にか終わっているように したかったんだと思う⟩

(福田) 俺 小学校の時 宇野のこと好きだったんだよね｡

(麻美) フフフ…｡

⟨結局この日は ３人で朝まで ここで過ごした⟩

♪～

(美穂)〔あーちん 一緒に帰ろう〕

(麻美)〔うん 帰ろう〕

〔なっち ノストラダムス 信じてたの？〕

(夏希)〔信じてはないけど…〕

(麻美)〔“トリック”見た？〕

(夏希)〔私 見てないから言わないで〕

(真里)〔楽しいものが 全部そろってる感じだよね〕

〔住みたいんだけど〕

(麻美)〔あ～ 住みたいね〕

♪～

(麻美)〔やった～！〕

〔♪～ 大きな希望〕

(美穂)〔フリーザ乗ってるやつでしょ〕

(麻美)〔コォ～！〕

(夏希)〔食べよう 食べよう 食べよう〕

(２人)〔イェ～イ！〕

〔やった～〕

(麻美)〔本当によかった〕

〔ねぇ 今度さ あの２人 カラオケに誘ってみる？〕

〔無事 フライトが成功したら行こう〕

(麻美)〔えっ だって フライトって来年でしょ？〕

〔その前に行こうよ〕 >> 〔あ そっか〕

(麻美)〔それこそ 来月とか再来月またこっち帰ってきた時に 行かない？〕

〔そうだね〕

♪～

(麻美) ⟨あの日以降 私は今まで以上に 実験に没頭した⟩

⟨そして あの日から３年が経った ある夜の帰り道⟩

(美奈子) 近藤さん？

覚えてます？

(麻美) 河口さん？

>> そうです お久しぶりです｡

(麻美) お久しぶりです｡

近藤さん 今 どこで働いてるんですか？

(麻美) ⟨彼女は市役所時代の後輩の 河口さん⟩

⟨だけど それは１周目⟩

>> そうなんですね｡

(麻美) ⟨ということは つまり…⟩

あ 私も やり直してるんですよ｡

(麻美) そうだよね｡ >> そうっす｡

(麻美) ⟨ノリは軽いけど⟩ >> えっ 近藤さん 今 何周目ですか？

(麻美) 私 ４周目｡

河口さんは？ >> ８周目です｡

(麻美) はぁ～ えっ 何で私が やり直してるって分かったの？

いや 近藤さん 途中から 急にいなくなったからそうなんだろうなって思って｡

(麻美) そっか…｡

今日は たまたま友達に会いに 東京に来てたんですけどそしたら 近藤さんいたから ビックリして｡

(麻美) そっか そっか｡

家ね すぐそこなんだよね｡ >> あ そうなんですね｡

(麻美) ねぇ よかったら ちょろっと家に寄ってかない？

え いいんですか？

(麻美) もし 時間がね 大丈夫だったら｡ >> 全然大丈夫です｡

(麻美) ホントに？ >> 私も もっと話したいし｡

(麻美) じゃあ 話そう 話そう｡ >> はい 話しましょう｡

(麻美) ⟨まりりん以外で やり直している人と会うのは初めてなので 何だか すごくうれしかった⟩

８周ってすごいね でも｡

今 何の仕事してるの？

>> 同じです 北熊谷市役所｡

(麻美) そうなんだ｡

他の仕事には就いたりしないの？

自分的に １周目が結構気に入ってたんで毎回 同じ感じで なぞってるんですよ｡

(麻美) 同じ感じって どのくらい？

>> ん～ いや もう ほぼほぼです｡

(麻美) ほぼほぼ？

はい 仕事だけじゃなくて 趣味とか交友関係とか｡

それこそ 服のローテーションも ほぼ同じです｡

(麻美) すごいね… それって楽しいの？ >> 楽しいですよ｡

どこまでなぞれるか ゲームみたいな感じで｡

(麻美) へぇ～ そうなんだ｡

⟨斬新な楽しみ方⟩

ねぇ 河口さんってさ 来世 何って言われた？

私は ウニだったんだけどさ｡

私はアオサギです｡

(麻美) アオサギって何だっけ？ >> 鳥ですね｡

ペリカンの仲間とか｡

(麻美) あぁ｡

⟨いいのか悪いのか分からない⟩

⟨ウニよりは いいか⟩

でも 鳥も楽しそうだし 別にいいかなって思ってます｡

(麻美) 鳥ね｡

⟨確かに ウニよりはいい⟩

ホントは１回くらい違う人生を 選んでみてもいいかなとか思うんですけど 下手に違うことして取り返しのつかないことに なるのも怖いんで結局 同じ人生にしちゃうんですよね｡

(麻美) なるほどね｡

でも何か うれしいです｡

今まで こんな話 人にしたことなかったから｡

(麻美) 普通は話せないよね～｡ >> 近藤さん 誰かに話しました？

(麻美) 私はね 幼なじみにね ５周目だった子がいたのよ｡

あっ そうなんですね その方 今 何されてるんですか？

(麻美) いろいろあって 今は雲の上というか｡

>> あっ 航空関係？

(麻美) まぁ そんな感じかな｡

いいですね～｡

やっぱ 私ももっと新しいことに チャレンジするべきだったかな｡

(麻美) いや 河口さんの生き方も ステキだと思うよ｡

そうですかね｡

(麻美) ⟨何回も なぞりたくなるというのはそれだけ幸せな１周目だった というこ…⟩

(ドアが閉まる音)

〔友達ん家で｢トイレ 借りていい？｣って聞くのに似たものがありますよね〕

(麻美)〔トイレ？〕

>> 〔｢ダメ｣って言う人なんか いないけどなぜか許可を 取っちゃうじゃないですか〕

(麻美) ⟨許可取ってねえし⟩

(麻美) ⟨４周目の人生も39年⟩

⟨相変わらず 私は研究に没頭する 毎日を送っていた⟩

⟨そんなある日の帰り道⟩

(作業員)＼危ない！／

あっ え～ ではですねこちらに お名前と生年月日を ご記入ください｡

はい ありがとうございます｡

少々お待ちください｡

はい え～ 近藤麻美様ですね｡

39年間 お疲れさまでした｡

それでは 新しい生命に ご案内いたしますね｡

こちらですね 左側 真っすぐ進んでいただきますと扉がございますので そちらから 来世にお入りください｡

(麻美) はい｡

ちなみに 次は何ですか？

え～ 次はですね… え～｡

人間ですね｡

(麻美) え？

人間？ >> はい｡

(麻美) あぁ… あぁ… 次 人間ですか｡

そうですね 一応こちらになりますね｡

(麻美) ありがとうございます｡

すいません どれですか？

あっ これ あの フリー素材なので どれとかはないですね｡

(麻美) そうなんですね｡ >> あくまでもイメージなので｡

(麻美) あぁ…｡

分かりました｡ >> はい｡

いってらっしゃいませ｡

♪～

(麻美) すみません｡ >> はい｡

(麻美) あの やり直せますかね？

>> えっと… あっ できますよ｡

(麻美) そうですか｡

じゃ やっぱり やり直します｡ >> かしこまりました｡

それではですね こちら右側に 真っすぐ進んでいただきますと扉がございますので そちらから 今世にお入りください｡

で ですね 近藤様 次で最後になりますね｡

(麻美) あ… そうですか｡ >> はい｡

最後の回だけは お伝えすることになってまして｡

(麻美) はぁ… そうなんですね｡

よろしいですか？

(麻美) じゃ いってきます｡ >> いってらっしゃいませ｡

♪～ “笑えれば”

(久美子) 麻美ちゃん かわいいね～｡

(麻美) ⟨こうして ５周目の人生が スタートした⟩

⟨最後は 人間に生まれ変わるためでも徳を積むためでもない人生⟩

⟨来世ではなく 今世をより良いものにするため⟩

⟨だから…⟩

⟨これも徳のためではなく⟩

ねぇ｡

ツツジの蜜って毒性があって中毒を起こす危険性があるから 吸わないほうがいいよ｡

⟨純粋な親切心⟩

約束してくれる？

(洋子) うん 約束する｡

(麻美) ⟨そして これも…⟩

>> 捨てました｡

(麻美) ありがとう｡

⟨ただ幸せになってほしいから⟩

玲奈ちゃん｡

(玲奈) 何？

(麻美) 将来 悪い男に 引っかかったらダメだよ｡

>> 悪い男？

(麻美) うん｡

簡単に連絡先を交換しないこと｡ >> どういうこと？

(麻美) じゃあ 玲奈ちゃんに 幸せのおまじないを教えるね｡

おまじない？

(麻美)｢宮岡さんは既婚者｣｡

｢みやおかさんは き… こんしゃ？｣｡

(麻美) そう ｢宮岡さんは既婚者｣｡

これだけ覚えといて｡ >> うん｡

｢みやおかさんは きこんしゃ｣｡

｢みやおか…｣｡

さんは きこんしゃ！

みやおかさんは きこんしゃ！

(麻美) ⟨ちょっと やり過ぎたかな…⟩